



ThreeBond



2021

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.3

RACE REPORT



AUTOPOLIS

HONDA

YOKOHAMA

ROKiT

BANDERO
Premium Tequila

@MAISYKAY

KS Material

NGK
SPARK PLUGS

QMI
beyond the invisible



3M

KAJIMA

Hone
Exceed expectations

MOTUL

Swift

ODYSSEY
OUTDOOR

KRS
KTEL RACE SERVICE

WPC

SHIBA LINING JAPAN
advanced technology products

TONE



リボバンド



ポイント獲得までの試練

2021 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 3 戦が、5 月 15 日（土）～16 日（日）にかけて大分県のオートポリス・インターナショナル・レーシングコースで開催された。鈴鹿サーキットで第 2 戦を終えた tachiana・カルデロン選手（以下、カルデロン選手）はそのままヨーロッパへ戻り、5 月 1 日にベルギーのスパ・フランコルシャン・サーキットで開催された世界耐久選手権シリーズ第 1 戦に参戦後、日本に戻る予定だったが、国内の新型コロナウイルス感染拡大防止措置による 2 週間の隔離期間を考慮すると、今回のレースを断念せざるを得なかった。ThreeBond DragoCORSE は代役として昨年同様、塚越広大選手（以下、塚越選手）を起用しレースウィークを迎えた。九州地方は例年より大幅に早く梅雨入りし、オートポリスのある阿蘇地方も週末から天候が崩れる予報となっていた。

公式予選

土曜日のフリー走行は午前 9 時半からウェットコンディションで始まった。雨のオートポリスに関するデータのないチームは、このセッションを使ってセッティングを進める予定だったが、悪天候に足下をすくわれた車両が再三にわたりスピン、コースアウトしたためセッションが度々中断、塚越選手はなかなか周回数を稼げずセッティングが進まない。結局、塚越選手は 18 周走ってセッション終了直前に 1 分 41 秒 349 へタイムを更新、全 19 台中 17 番手で走行を終えた。

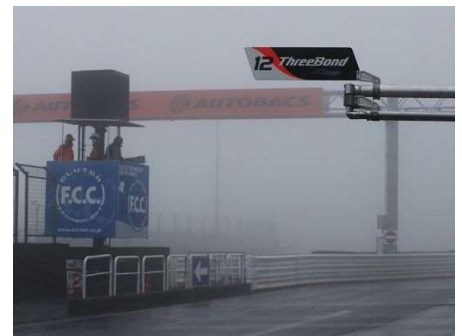
午後の公式予選は悪天候を考慮して開始時刻を午後 3 時 35 分へ遅らせたうえ、通常の Q1、Q2、Q3 から成るノックアウト方式ではなく、40 分間の計時方式で行われた。計測開始時点では雨は弱まっていたが、天気予報ではほどなく雨が強まると予測されており、各車できるだけ早くコースインしてタイムアタックにかかろうと一斉にコースインする。しかしこれまでシリーズポイントを獲得したことがないチームである ThreeBond DragoCORSE はピットロード出口から最も遠い最終コーナー側の不利な位置にあり、塚越選手はほぼ最後尾からコースインせざるを得なかった。さらにセッション中、2 回にわたってアクシデントが発生して赤旗が提示され、タイムアタックのタイミングも上手く取れない。

塚越選手は、3 回目の赤旗が解除されてセッションが再開された後でタイムアタックを行い、1 分 39 秒 721 を記録、さらにタイムを縮めようとアタックを続けた。しかし 4 回目の赤旗が出てしまい、タイムの更新はならずピットへ戻った。この時点で順位は 9 番手だった。

午後 4 時 40 分、セッションは再開されたがこの頃には雨足が強まってタイム更新は無理なコンディションとなり、事実上予選は終了。しかし、塚越選手のスターティンググリッドは ThreeBond DragoCORSE にとってスーパーフォーミュラ参戦以来最上位の 9 番手と決まった。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	# 36 Giuliano Alesi 1'38.252
2	#37 宮田 莉朋 1'38.511
3	#39 阪口 晴南 1'38.511
9	#12 塚越 広大 1'39.721



決勝レース

5月16日(日)は朝から荒天で濃霧も発生して視界が悪化したため午前中のフリー走行はキャンセルされ、天候を考慮してスタート時刻を午後2時55分まで遅らせて決勝レースが始まった。

スタート時点で雨は降っていなかったが路面はフルウェットコンディション。スタートの瞬間、塚越選手は出遅れたが、直後の1コーナーで複数台が絡まるアクシデントが発生し、混乱を上手くすり抜けると6番手へ浮上した。

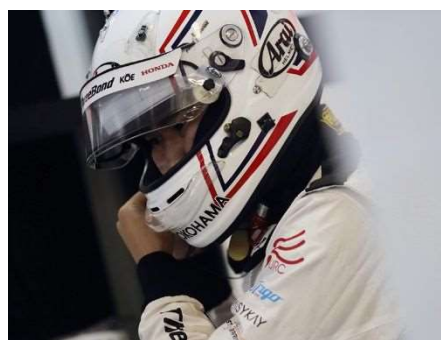
このアクシデントによりセーフティカーが導入され5周目にレースが再開された。再スタートで上位の1台がコースオフしたため塚越選手はさらにポジションを上げて5番手となった。7周目には後続車にオーバーテイクを許したもののペースは良く、順位挽回を狙って周回を続けると、9周目のジェットコースターストレートエンドで前走車をオーバーテイクし5番手に復帰した。しかし、その直後最終コーナーの手前でバランスを崩してスピン、コースには復帰できたものの順位を大きく落としてしまった。

結局、塚越選手は13番手でレースをやり直すことになったが、ここで急に雨が強まりレース続行が危険と判断した競技審判側はセーフティカーを導入する判断を下した。

しかし天候はさらに悪化、13周目に赤旗が提示され全車ストレート上に天候の回復を待つ形で停車することとなった。

その後、再開される予定だったが、午後4時30分、天候回復は見込めないためレース打ち切りが決定した。

結果は12周終了時点の順位で決まり、最終的に塚越選手は12位完走でレースを終えた。



ドライバー（塚越広大）コメント

今週末は、走り出しからずっと雨で難しいコンディションでしたが、その中でクルマのセットを進め、公式予選では赤旗が何度も出る中、9番手からスタートすることができました。決勝も1周目でポジションを上げることができ、結構いい調子で走っていたのですが途中でハーフスピン、復帰に時間がかかってポジションを大きく落としてしまいました。その直後にセーフティーカーが入ってレースが終わってしまっ。クルマのパフォーマンスとしては上位でゴールできたはずなのに自分のミスで順位を下げてしまったのでチームに申し訳ないです。あのままレースが続いていればポジションを戻してレースの展開を変えられるくらいのペースで走れる感触はありました。結果は残せませんでした。がクルマの良いところ、課題のあるところについてのフィードバックではそれなりに貢献できたと思っています。



監督（道上龍）コメント

オートボリスはいつも天候で苦労します。今回はタチアナ選手が乗れなかったのも、ベテランである塚越選手に乗ってもらったのですが、彼の経験を元にクルマの現状を評価してもらう良い機会になったと思います。今回はずっとウェットコンディションでしたが全体としてバランスが良かったようです。予選では、みんなアタックする前に最終コーナー前で助走を付けようとしてトラフィックになってしまい、そこに引っかかってしまったのですが、それでもチームとしてこれまで最高の順位のグリッドを獲得できたので良い結果だったと思います。決勝は、5番手からさらに上を狙おうとしているときスピンしてしまい残念です。ポイントが獲れなかったことも残念ですが、あのレベルで走れるポテンシャルがあるということは確かめることができたので、手応えを掴めた週末でした。次のレースにタチアナ選手が戻ってこられるかどうか今の段階では分かりませんが、クルマとしては良い方向に傾きつつあると思うので、今年はしっかりポイントを獲得つもりで戦います。



エンジニア（伊与木仁）コメント

こんな天気だったので大変でしたが、逆に考えればチャンスもあると思っていました。せっかくあのポジションで頑張っていたのにスピンしてしまったことは残念ですが、僕個人的には、今回うちのクルマの仕上がりについては納得できるレースでした。結果が残らないことには何もありませんが、我々は新参チームで雨のセットアップがまったくできていなかったのに、他チームに対して大きく劣ることはなく、雨の中で他車に置いて行かれませんでした。今の状態の延長で仕上げれば良いとポジティブな手応えを感じたレースでした。



レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	36	Giuliano Alesi	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	23'54.340
2	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	24'01.861
3	51	松下信治	Buzz Racing with B-Max	24'02.095
4	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	24'02.576
5	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	24'05.665
6	15	大津弘樹	Red Bull MUGEN Team Goh	24'11.964
7	64	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	24'14.936
8	14	大嶋和也	NTT Communications ROOKIE	24'18.133
9	1	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	24'28.912
10	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	24'30.352
11	3	山下健太	KONDO RACING	24'33.071
12	12	塚越広大	ThreeBond DragoCORSE	24'34.296
13	5	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	24'36.545
14	6	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	24'40.556
15	4	中山雄一	KONDO RACING	24'46.651
16	7	小高一斗	KCMG	22'37.812

Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	岡山	鈴鹿
1	野尻智紀	48	48	3+20	2+20	3				
2	平川亮	23	23	8	15	0				
3	大湯 都史樹	21	21	2+15	1+1	2				
4	笹原右京	18	18	3+6	11	0				
5	Giuliano Alesi	15	15	0	2	3+10				
6	宮田莉朋	15	15	4	5	2+4				
7	福住仁嶺	14	14	11	3(QF)	0				
8	阪口晴南	10.5	10.5	2	0	1+7.5				
9	山本尚貴	9	9	5	3	1				
10	関口雄飛	8.5	8.5	0	8	0.5				
∴										
12	Tatiana Calderon	0	0	0	0	0				
12	塚越廣大	0	0	0	0	0				

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	岡山	鈴鹿
1	TEAM MUGEN	43	43	20	20	3				
2	carenex TEAM IMPUL	31.5	31.5	20	23	0.5				
3	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	28	28	17	11	0				
4	TCS NAKAJIMA RACING	27	27	8	4	3				
5	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	25	25	4	7	14				
6	P.M.U./CERUMO・INGING	13.5	13.5	2	4	7.5				
7	Red Bull MUGEN Team Goh	8.5	8.5	0	6	2.5				
8	B-Max Racing Team	5.5	5.5	0	0	5.5				
∴										
12	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0	0	0				

